

平成 30 年 6 月 27 日現在

機関番号：34511

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02966

研究課題名(和文) イギリス帝国と近代日本 帝國的諸事業・思想の越境的伝搬と展開

研究課題名(英文) British Empire and Modern Japan: Transboundary Propagation and Development of Imperial Projects and Ideas

研究代表者

吉村 真美(森本真美)(YOSHIMURA-MORIMOTO, Mami)

神戸女子大学・文学部・教授

研究者番号：80263177

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文):本課題は、イギリスの帝国理念や、この理念を反映した制度および社会事業が帝国の境界を超えて伝搬され、近代日本において展開をみた諸事例に注目し、この異帝国間伝搬のメカニズムを、日本・イギリス双方の史料の検証によって解明することを試みた。

近代日本は、自身をも含めた複数の帝国の力が重層的に作用する「間-帝国」(trans-imperial)領域であり、イギリス帝国の諸制度の伝搬はモデルを単純に後者に移植するものではなく、複数の帝国勢力が宗教や社会活動のさまざまなネットワークを通じて重層的に干渉しあうなかで進行したこと、さらにこの作用はイギリス帝国自身のあり方にも影響を与えていたことを明らかにした。

研究成果の概要(英文): This study aims to analyse the cases of the patterns of trans-boundary influences of British imperial projects and ideas that propagated and developed in Modern Japan, especially in its imperial age. To approach this aim, we investigated minutely historical documents both of Britain and Japan and re-examined their systems and constructions, particularly by focusing on the 'trans-imperial' feature of modern Japan.

The conclusions are as follows: 1) The trans-boundary propagation of British imperial projects and ideas were not transported intactly, but proceeded under the complex relationships of imperial powers and networks of religious and social activities over the world. 2) Such interrelationships affected on Britain itself in their imperial age.

研究分野：イギリス近代史 イギリス社会史 イギリス帝国史 近代子ども史

キーワード：帝国史 植民地主義 イギリス 日本 東アジア

1. 研究開始当初の背景

(1) わが国における20世紀初頭以降の西欧史研究の中でも、イギリス帝国史研究は特に活況を呈してきた領域であり、国際的評価にたえる独自の成果を着実に積み重ねている。その最大の功績は、長らく学界の内外で受容されてきた「島国の一国史」という古典的イギリス史像の転換であろう。

複数のネイションからなる複合国家としての本国と、広範な海外領土からなる帝国としてのイギリス史理解はいまや常識として定着し、さらに近年では学際的な関心を集めている国際組織としての「コモンウェルス」がひとつの重要な論点と位置づけられ、その機能や役割の分析からポスト帝国時代の世界史の再構築も試みられている。

(2) しかしこのような新しい潮流にあっても、いまだその前提であり続けているのは、帝国を、本国の植民地支配、ないし植民地の被支配という「タテ」の支配関係を基軸にとらえる伝統的理解である。本課題の研究チームは、この伝統的な帝国理解の基軸の再考に一貫して取り組んでいる。

2. 研究の目的

(1) 本課題の研究チームは、まず平成24-26年に、課題「19世紀イギリスの植民地間ヒト移動と帝国ネットワークの形成」(課題番号24520851)において、イギリス帝国の基層部におけるタテならぬ「ヨコ」の関係、すなわち帝国と帝国を結ぶヒト(人間)移動の検証から、横断的な帝国ネットワークの存在と機能の解明を試みた。本課題はその成果として判明した、ヒト移動の高度な越境性という特色を着想の起点としている。

(2) 「イギリス帝国」は、政治的支配領域としての帝国の境界はもとより、圧倒的なイギリスの経済的・文化的支配領域として位置づけられるその周辺地域、いわゆる非公式帝国のフロンティアをもしばしば越えて、行政システムや統治理論、チャリティをはじめとする社会事業、そして福音伝道というかたちで伝搬された。

(3) 本課題の特色は、分析概念として、複数の帝国の力が重層的に作用する「間-帝国(trans-imperial)」に注目することである。間帝國的領域としての「近代日本」のケースについて分析・検討することで、イギリス帝国史、ならびにグローバルな帝国史研究に、またグローバル・ヒストリーとしての日本近代史にたいしても、新たな視座を提言することが、本研究の目的である。

3. 研究の方法

(1) 研究計画を遂行するための研究体制
本研究は、19世紀中期から20世紀初頭にかけての、イギリスから日本への帝國的諸事業や思想の伝搬と展開の様態の解明が目的である。事業や思想など、伝搬の対象によって、以下のような分担体制をとって各自で資料の収集と分析を進めた。

吉村真美(研究代表者) 少年団運動、帝国プロパガンダ

中沢葉子(研究分担者) 女性宣教師による福祉事業、教育

水谷 智(研究分担者) イギリス・日本の植民政策

メンバーは、イギリス帝国史ならびに日本帝国史の研究動向を把握しつつ、海外・国内において資料収集を行って、それぞれのテーマについてのその分析・研究を進めた。

(2) 成果の発信と学際的議論

本課題の性格から、間帝国研究の焦点としての日本の重要性を、国内・海外の学会において帝国史研究者にむけて発信することを重視し、海外学会における講演、報告を行うとともに、総括となる公開シンポジウムを計画した。

また、教育・福祉をはじめとする社会制度やジェンダーの問題への関わりが深いことから、女性史をはじめとする学際的共同研究のプロジェクトにも積極的に参加し、本課題とその成果の意義を広く提起した。

4. 研究成果

(1) 分担研究の成果

吉村真美(研究代表者)

吉村は、少年団運動、ならびにこの運動やメディアを通じて行われた青少年を対象とした帝国プロパガンダの日本への伝搬・発展を分担した。

ボーイスカウトに代表される各種の少年団運動は、際立って愛國的・民族主義的な様相を持つ半面で、その「国民」の育成にあたっての青少年期の重要性への関心や、組織としての活動理念、運営・活動方法などの諸点において普遍性を持っており、国際的拡張や連携・交流をともないつつグローバルな動きとして展開したことが特色である。

イギリス少年団運動の日本への伝搬については、帝国プロパガンダ的諸要素の受容に際してそのキリスト教色が重要な論点となったこと、またこの動きを後押しした海外諸教派の教義や活動方針の影響が、台湾をはじめとする日本帝国の植民地における青少年活動においても大きく影響したことを明ら

かにした。

中沢葉子（研究分担者）

中沢は、イギリスの女性宣教師の日本での伝道、ならびに彼女たちが行った社会福祉事業や教育、の分析を分担した。

帝国建設の主体が男性であったことは、イギリス帝国史をジェンダーから理解するうえでの重要な大前提ではあるが、近年注目されているのは、彼らがしばしば妻や家族として帯同した女性たちが、帝国文化の形成にはたした役割である。中沢は、男性宣教師の妻やその予備軍であることも多かった女性宣教師が、帝国外の日本において、とりわけ女性や子ども、貧困層を対象とする福祉事業や教育を推進した事例に注目した。

とりわけ今日の社会問題にもつながる母子関係や子育てをめぐる理念について、イギリス帝国植民地の状況も視野に入れつつ、プロテスタント諸教派の日本における教育・福祉活動について明らかにした。

水谷 智（研究分担者）

水谷は、植民政策全般を分担し、とりわけイギリス植民政策の日本帝国への伝搬と受容、他の近代帝国の植民政策にたいするイギリス帝国の知識と見解について精査した。

水谷はとりわけ、植民地主義と反植民地主義の歴史的展開について、イギリスの植民地であったインドと、日本の植民地であった朝鮮をとりあげ、本課題の理論的枠組みである「間-帝国」の視点からの実証研究に取り組み、その相互の影響について明らかにした。

(2)本課題全体としての成果

上記のような成果は、グローバル・ヒストリーとしての帝国史・日本および東アジア近代史研究の学界に提示し、大きな反響を得た。（招待講演、Satoshi Mizutani, "Remembering trans-imperial anti-colonialism: the recent Korean commemoration of Indian and Canadian critics of Japanese rule", *Colonial Memories: Comparative Perspective on German, Japanese, and Korean Cases*", 2015 など）そこでこれらの地域の近代史を「間-帝国」概念によって再考せんとするのねらいから、本課題の関心とも通じる駒込武氏の論考『世界史のなかの台湾植民地支配 台南長老教中学校からの視座』（岩波書店、2015）を糸口に、日本史・東アジア史研究者をひろく海外からも招へいた学際的な議論を展開する以下のシンポジウムを、課題全体の総括として開催するにいたった。

「<はざま>から再考する帝国史」

(Rethinking Imperial Histories from the Realm of in-between)、日英帝国史合同プロジェクト、本課題主催、2017年7月16日、

同志社大学、使用言語：日本語。

また、本課題と共通する関心領域のさらなる展開として、ジェンダー、教育、家族の日英間比較等に関連する共同プロジェクト「近代化・女性・家族」の企画にも参画し、本課題として、以下の2つの公開国際シンポジウムを主催した。

'The Origins and Impact of "Child Removal" in Britain and Beyond', 合同プロジェクト「近代化・女性・家族」、本課題主催、2017年4月15日、同志社大学、使用言語：英語。

'Rethinking Feminism through Global History', 合同プロジェクト「近代化・女性・家族」、本課題主催、2017年10月28日、同志社大学、使用言語：英語。

課題全体としては、申請時に想定していた日英両国の相互関係の解明というテーマ以上に、地理的・学問的領域の広がりをもつ学際研究との接点と展望を得られた、きわめて実りある成果を得たと考えている。

本課題の成果に基づく今後の展望としては、「間-帝国」の枠組みと構造から、従来「先進国」で確立した定型モデルの移植として理解されてきた思想・理念社会事業の非欧米圏における展開を再考し、越境的かつ重層的な影響力と広範なネットワークを特色とする近現代世界のグローバル・ヒストリーの、新たな視角からの構築に寄与してゆきたいと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計9件)

Satoshi Mizutani, 'Semi-educated natives' as a source of imperial anxiety: the politics of English education and bureaucratic recruitment in Bengal, ca.1830-1880, *Bangabidya: International Journal of Bengal Studies*, vol.10, 2018, pp.536-557. 査読有

Satoshi Mizutani, Recovering the Subject in the Shadows of Empires: Colonial Violence and Resistance in Taiwan, *Cross-Currents E-Journal*, vol.23, 2017, 234-248, 査読有

森本真美、世紀転換期イギリスの少年雑誌にみる「日本」、ハルシオン（世界子ども学研究会紀要）第6号、2016、pp.47-62、査読無

並河葉子、イギリス領西インド植民地における「奴隷制改善」と奴隷の「結婚」問題、史林、99巻、1号、2016、pp.146-176、査読

有

〔学会発表〕(計 10 件)

Satoshi Mizutani, British attitudes to Korea's claim for independence, ca. 1905-20: the trans-imperial significance of Britain's colonial experience in India and Egypt, The 3rd Tübingen-Doshisha-Korea University Conference, Doshisha University, 30 September 2017

Satoshi Mizutani, Indian Anti-colonialism in Trans-imperial Interactions: Tagore, R. B. Bose and their Politics of Comparison over Japanese Colonialism in Korea, In-Between Empires: Trans-imperial History in a Global Age, Humboldt-Universität zu Berlin, 15 September 2017

森本真美、子ども移民とイギリス近代、第 22 回ワークショップ西洋史・大阪、大阪大学、2017

並河葉子、イギリス領西インド植民地における奴隷の女性と子どもたち、世界子ども学研究会第 16 回研究例会、青山学院大学、2016

〔図書〕
該当なし

〔産業財産権〕
該当なし

〔その他〕

・学術雑誌特集記事

水谷智、並河葉子、森本真美、駒込武他、特集 <はざま> から再考する帝国史、社会科学(同志社大学人文科学研究所) 第 48 巻、第 1 号、2018、pp.1-98.

論考名: 水谷智「特集にあたって」(pp.1-2) 「シンポジウム趣旨説明」(pp.3-4) 「日英の二つの帝国の<はざま>から考える植民地教育と現地エリートの「夢」」(pp.7-27); 並河葉子「イギリス帝国史とミッション史の文脈から読む『世界史のなかの台湾植民地支配』」(pp.29-40); 森本真美「長老教中学校の子どもたちは何を夢見たか? - 子ども期研究の視点から」(pp.41-46)、すべて査読有

・ホームページ等
該当なし。

6. 研究組織

(1)研究代表者

吉村 真美(森本真美)
(MORIMOTO-YOSHIMURA, Mami)
神戸女子大学・文学部・教授
研究者番号: 80263177

(2)研究分担者

中沢 葉子(並河葉子)
(NAMIKAWA-NAKAZAWA, Yoko)
神戸市外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号: 10295743

水谷 智(MIZUTANI, Satoshi)
同志社大学・グローバル地域文化学部・教授
研究者番号: 90411074

(3)研究協力者

該当なし